

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『自らの生き方を切りひらく子どもの育成』～やさしさ いっぱいかがやく えがお～
 【知】自分らしさを発揮する子どもの意欲を引き出すようにします。
 【徳】信頼と思いやりをもって、共に生きることのできる素晴らしい素晴らしさを実感できるようにします。
 【体】自ら進んで心を育て、体づくりができるようにします。
 【公】豊かなかわり合いを通して、主体的に行動する力を育てていきます。
 【開】地域を愛し、地域に学ぶ姿勢を大切にします。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する力〉
 〈問題発見・解決能力〉
 〈心身ともにたくましく生きる力〉

具体化した資質・能力

自分の考えや思いを伝える力 自ら課題を見出し主体的に取り組む力
 互いのよさを認め互いに高め合う態度 規範意識と感謝の思い
 未知なる環境や活動への積極性 よりよく生きていこうとする姿勢

中期取組目標

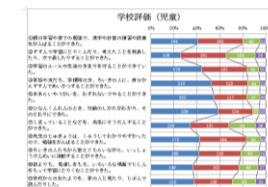
○自ら問題や課題を見出し、解決に向けて主体的に取り組む子どもを育てます。
 ○自分の思いを大切にしながら、他と伝え合うことで考えを深めることができる子どもを育てます。
 ○まちの「人・こと・もの」とのつながりを大切にして、感謝とまちを愛する気持ちを育てます。
 ○地域との連しながら、規範意識や人権に尊重する心、社会参画意識を高めていきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①「自分の言葉で表現する子の育成」を目標に、子どもが伝えたい、やってみたいと思える授業を目指す。低・中・高ブロックごとに具体的な手立てを考え実践する。 ②教科担任制・少人数学習・GIGA端末の活用を通して、一人ひとりの学習をよりていねいに見ていく。
担当	推進部会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 ・すすんで学習に取り組んだり、考えたことを発表したり、文で表したりすることができる児童が多い。



(2)これまでの学校の取組状況
 ・言語活動を通して、主体的に考え、自分の言葉で表現し、学び合う力を育むのテーマ達成のために手立てを講じたことで、次の成果が上がった。友だちと話し合うことが好きになった。段落や組み立てを考えて書くことができるようになった。大事な言葉や段落をとらえて読むことができるようになった。



・教科担任制、少人数算数を導入し、より分かりやすい授業を確立できた。また、少人数算数を取り入れ、一人の子どもの支援できる時間を増やし、児童の学習意欲、学力の向上につながった。

今年度の目標

自分の言葉で表現する子の育成
 一人ひとりの学習をていねいに見るための支援体制を整える

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 自分の言葉で表現する
低学年ブロック『安心して話せる子どもを育てるための手立て』
中学年ブロック『授業内のコミュニケーションの充実』
高学年ブロック『単元の流れや導入、学習形態の工夫、表現技術の向上を図る』の、テーマをもとに授業者が具体的な手立てを考え実践する。実践した内容を各ブロックで省察し、日々の授業に生かしたり、次時の活動に生かしたりする。
- 一人ひとりの学習をていねいに見るための支援体制
各学年、各ブロックに合った教科担任制を導入し、より分かりやすい授業を確立する。
少人数算数を取り入れ、一人の子どもの支援できる時間を増やす。
GIGA端末を活用し、子ども一人ひとりが自ら学習する内容を選択し、学習する機会を増やす。

下半期

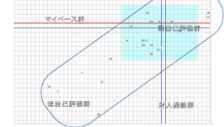
- 自分の言葉で表現する
低学年ブロック『安心して話せる子どもを育てるための手立て』
中学年ブロック『授業内のコミュニケーションの充実』
高学年ブロック『単元の流れや導入、学習形態の工夫、表現技術の向上を図る』の、テーマをもとに授業者が具体的な手立てを考え実践する。実践した内容を各ブロックで省察し、日々の授業に生かしたり、次時の活動に生かしたりする。
- 一人ひとりの学習をていねいに見るための支援体制
各学年、各ブロックに合った教科担任制を導入し、より分かりやすい授業を確立する。
少人数算数を取り入れ、一人の子どもの支援できる時間を増やす。
GIGA端末を活用し、子ども一人ひとりが自ら学習する内容を選択し、学習する機会を増やす。
・次年度に向けて準備をする
既習事項を振り返りながら一人ひとりの課題や成果を確認し、復習を行っていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①子どもの困り感に寄り添うための実態把握、環境整備、学習支援に丁寧に取り組み、児童理解・学級集団理解を進め子どもの自尊感情・自己肯定感を育てる。②ガイドラインに基づいた教育活動を充実させ、自然体験や生活体験、地域の材を生かした福祉教育など、規範意識や人権を尊重する心、社会参画意識を育てる。
担当	道徳部 人権担当

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
 ・ベア学年を中心とした縦割り活動を実施し、子どもの自尊感情・自己肯定感を育てる活動を継続できた。
 ・YPの結果より、低自己評価群の児童も見られる。自己有用感をもてず、スムーズなコミュニケーションが取りにくい様子も見られる。
 ・人権週間の取り組みを日常化し、生活の中で人とのかわりを大切にする意識をもたせるように努めた。一方、進んで挨拶することが少ないなど課題も感じられる。



(2)これまでの学校の取組
 ・なかよしベア活動、学年内での実行委員、各クラスの係活動、150周年に向けた取組などを通して、人との関わりをもち、自己有用感や達成感を育んだ。
 ・地域の学援隊や保護者、教職員の見守り活動を中心とした挨拶の励行を促してきたが、いっつも進んで挨拶ができる児童が少ない。運営委員会が中心となり、あいさつ運動に取り組んだ。ロイロを活用し、振り返りなどを共有した。
 ・人権週間に合わせて、学年やクラスの実態に応じた授業実践や振り返りを行った。いじめアンケートを活用し、だれも安心して生活できる場をつくってきた。
 ・学年内やブロック内でYPアセスメントシートを分析し、日々の教育活動に活用した。
 ・重点研究では、「言語活動を通して、主体的に考え、自分の言葉で表現し、学び合う力を育む」の主題のもと、児童一人ひとりのできた・わかったにつながる研究を進めた。複数の教職員で指導することで多様な見方にもつながり、一人ひとりに寄り添うことを目指した。

今年度の目標

子どもの困り感に寄り添い、だれも安心して、豊かに生きる子の育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 年間指導計画に沿った、全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。
- 道徳研修会を実施し、道徳科の授業づくりについて研修し、指導に生かす。
- 子どもの自尊感情の育成のために、子どもの背景を基とした児童理解に努める。
- 多様性を認め、他者の思いを想像する力の育成のために、子どもの社会的スキル横浜プログラム等を活用する。
- YP研修やYPアセスメントの支援検討会の実施により、学級課題の改善や子ども個人の課題の改善に向けて校内の指導体制を整え、職員が「だれも安心して豊かに」過ごすことができる学級風土づくりへ向けた協働ができるようにする。
- 人権研修、特別支援教育研修などを通して、職員の人権感覚・意識を高める。

下半期

- 家庭や地域での様子(挨拶等)についてアンケートを実施し、子どもの実態把握を行い、道徳教育に生かす。
- 人権週間では、6年間を見据えてそれぞれの段階に応じたテーマを設定し、授業実践を行う。1.2年…自他 3.4年…異文化、男女、放射線 5.6年…福祉、障害
- 多様性を認め、他者の思いを想像する力の育成のために、子どもの社会的スキル横浜プログラム等を活用する。
- YP研修やYPアセスメントの支援検討会の実施により、学級課題の改善や子ども個人の課題の改善に向けて校内の指導体制を整え、職員が「だれも安心して豊かに」過ごすことができる学級風土づくりへ向けた協働ができるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①体力テスト等の分析に基づき、長縄集集を行うなど健康な体の育成を図る。②養護教諭、栄養職員を中心に全教職員が共通理解のもと保健指導、食育指導を定期的実施する。
担当	体育部 保健部

健やかな体に関わる本校の状況

○横浜市体力・運動能力調査では、全学年を通して、「立ち幅跳び」「50m走」「反復横跳び」の項目において横浜市平均より割合が高い。このことから運動特性においての「力強さ」「タイミングの良さ」「すばやさ」が得意であると言える。しかし、全学年を通して「長座体前屈」の項目において割合が横浜市平均以下となっている。このことから「体の柔らかさ」において課題が見える。

今年度の目標

○一校一実践として柔軟を取り入れる。
 ○休み時間での校庭での遊び方を確立し楽しんでスポーツに取り組む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 《体育科・保健体育科での取組》「授業」のつながり
○単元の特性を明確にし、子どもたちが楽しみながら運動に取り組めるような授業作りを工夫する。
- 子ども一人ひとりがめあてをしっかりともち、自分の力に合った場などを選び、運動に取り組めるよう指導する。
- 休み時間での校庭の遊び方ルールを決め、安全に楽しくスポーツに触れ合う子を育てる。
- 一校一実践として、柔軟体操、ストレッチ等の「体の柔らかさ」をテーマにした取り組みを行う。
- 学校保健委員会に取り組み、健康や運動に対する意欲や関心を高める。

下半期

- 単元の特性を明確にし、子どもたちが楽しみながら運動に取り組めるような授業作りを工夫する。
- 子ども一人ひとりがめあてをしっかりともち、自分の力に合った場などを選び、運動に取り組めるよう指導する。
- 休み時間での校庭の遊び方ルールを決め、安全に楽しくスポーツに触れ合う子を育てる。
- 運動委員会を中心に、柔軟体操、ストレッチ等の「体の柔らかさ」をテーマにした取り組みを全校に広め、みんなで高めあっていく。(一校一実践)
- 学校保健委員会に取り組み、健康や運動に対する意欲や関心を高める。
- 給食委員会から食の大切さを全校に発信し、食育の意識を高めていく。